

## ソルベントクラック(溶剤亀裂)について

塩ビ用接着剤を使う場合、接着剤の中には、有機溶剤が含まれており、取り扱いを誤ると、管内に接着剤(溶剤)蒸気が滞留し、ソルベントクラックを発生させる可能性が高くなります。ソルベントクラックは、その発生要因が判明しているため、配管施工時に注意すれば、対策出来るものです。

### ソルベントクラックの発生要因と対策

#### 〔発生要因〕

管内に接着剤(溶剤)の蒸気が存在していること。  
低温であること。  
管・継手に無理な応力が作用していること。  
(生曲げ、クランプ、土圧、熱応力等)

ソルベントクラックは、 が主要因であり、 、 が重なることで発生の可能性が高くなると考えられます。

#### 〔対策〕

接着剤は適量をできるだけ均一に塗布し、外面にはみ出した接着剤は必ず拭き取って下さい。  
曲げ部には既製の曲がり管や継手を使用して下さい。  
また、管には、支持具取り付け時に、無理な応力が掛からないようにして下さい。  
配管後は、管端部にキャップをしないで開放させ、通水洗浄を行うか、送風機などで送風させることで、管内の溶剤蒸気の除去を行って下さい。



#### 写真 ソルベントクラック起因の割れ

(破損部周辺にソルベントクラックが確認される)

#### 接着剤以外のソルベントクラック

塩ビ管・継手は、有機薬品に対して材質的に侵される恐れがあります。

- ・クレオソート(材木用防腐剤)
- ・白蟻駆除剤
- ・殺虫剤
- ・塗料
- ・溶剤系シーリング材
- ・可塑剤を含む材料

等には接触させないようにして下さい。